



琉球の芸能

那覇文化芸術劇場なはーと こけら落としシリーズ



新しい劇場で、
古の芸能とともに、未来へ

2022年3月13日 14時開演

会場 那覇文化芸術劇場なはーと 大劇場



宮古八重山

那覇文化芸術劇場なはーと こけら落としシリーズ

このたびオープンした那覇文化芸術劇場なはーとは、那覇市文化芸術基本条例にもとづき、地域の文化芸術を「市民の財産」として認識し、その継承、発展、創造、交流の促進を目指しています。開館初年度の「こけら落としシリーズ」では、日本を代表する公立劇場・ロームシアター京都と共同で沖縄の多様な芸能に注目し、京都で上演された演目の凱旋公演を行います。

宮古、八重山、琉球の各地域から集まったのは、古きを受け継ぎ、未来を創造する多彩なプログラム。終演後には、各地域の参加者と芸能のこれからを話し合うシンポジウムも開催いたします。豊かな唄と舞踊を楽しみながら、そこに込められた願いを受け止め、芸能とともにある沖縄の未来に思いを馳せる機会となれば幸いです。

宮古 太平に踊ら 大世に舞ら

八重山 世界報 ーばがけーら島とうとうむー

琉球 冊封宴の歌 ー北宮十二頌曲ー



【公式サイト】

【お問い合わせ】

那覇文化芸術劇場なはーと

沖縄県那覇市久茂地3-26-27

TEL 098-861-7810

営業時間 10:00~19:00

休館日 第1・第3月曜日(祝日の場合は翌平日)

https://www.nahart.jp/

●営業・開館時間は状況により変更することがあります。
最新情報はお問合せください。

【アクセス】

- 1 若松入り口 徒歩約6分程度
- 2 久茂地公民館前 徒歩約2分程度
- 3 沖銀本店前 徒歩約6分程度
- 4 松尾一丁目 徒歩約6分程度
- 5 松尾 徒歩約6分程度

- 6 県庁前駅 徒歩約6分程度
- 7 美栄橋駅 徒歩約6分程度

●駐車場は関係者専用となりますので、公共交通機関をご利用ください。



主催：那覇市 後援：沖縄県立芸術大学
企画：那覇文化芸術劇場なはーと、ロームシアター京都
Photography: Choji Nakahodo | Design: Noe Teruya

2022年3月13日 14:00開演 (13:15開場)

時間	第1部 ー宮古の芸能	14:00~15:00
	第2部 ー八重山の芸能	15:10~16:10
	ー休憩ー	16:10~16:30
	第3部 ー琉球の芸能	16:30~17:30

●休憩中に入退場は可能です。●公演終了後、シンポジウムを行います。

会場 那覇文化芸術劇場なはーと 大劇場

公演チケット	チケット料金	S席 - 4,000円	S席 - 2,000円
2022年1月23日(日)	全席指定	一般 A席 - 3,000円	U24 A席 - 1,500円
10:00 発売開始		B席 - 2,000円	B席 - 1,000円

●障がい者割引 20%引き(介助者の方は1名まで無料) ●U24、障がい者割引の取り扱い、なはーとチケットサービスのみ。

技術監督・コーディネート：關秀哉 (RYU) | 照明：伊藤雅一 (RYU) | 舞台監督：さかいまお

【チケット取扱】

●那覇文化芸術劇場なはーと チケットサービス

窓口 営業時間：休館日を除く 10:00~19:00

WEB https://www.nahart.jp/ ※24時間受付(メンテナンスの時間を除く)

●U24、障がい者割引チケットは、なはーとチケットサービスのみ取り扱いしております。

●コープあぶれ(あつるのタウン)：TEL.098-941-8000

●那覇市観光案内所：TEL.098-868-4887

●イープラス(スマートフォン/PC・ファミポート)

●りうぼうチケットサービス

●障がい者割引のご購入をご希望の方は、事前にお電話にてお問合せください。当日受付にて障害者手帳の提示をお願いします。なお、車椅子スペースには限りがございますので、ご了承ください。●当日券は500円増。●U24のチケットをご購入の方は、当日受付にて身分証の提示をお願いいたします。●未就学児のご入場をご希望の方は、劇場窓口でご購入ください。●やむを得ない事情により、出演者が変更になる可能性がございます。あらかじめご了承ください。

【京都公演】

本公演は、ロームシアター京都のシリーズ《継承と創造》としても上演いたします。

2022年2月11日~12日 会場：ロームシアター京都 サウスホール

ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto



第1部

宮古

太平に踊ら 大世に舞ら

プログラム

- 一、雨乞いのああく
- 二、神々の舞
- 三、トীগニアヤグ
- 四、大世栄
- 五、多良間世
- 六、なりやまあやく
- 七、棒踊り
- 八、家庭和合
- 九、中立ちぬミガガマ
- 十、黒潮の鬨魂
- 十一、豊年世ぬクイチヤー



古からの渴望

宮古島は平坦な地形で、山も川もなく、昔から水不足に悩まされてきた。島の先人たちはその苦しい時代を神への祈りで乗り越えてきた。「祈り」がやがて「唄」になり、「踊り」へ変化し、現在まで受け継がれてきた歴史がある。タイトルにある「太平」は昔の呼び名で「宮古島」のことで「大世」は「平和な世の中」を意味する。今の平和な暮らしは、先人たちのおかげ。その感謝の気持ちを込めて、これから先の平和を願い、舞台で表現したい。

プログラムは「水」をテーマに全体を構成している。宮古島の芸能「クイチヤー」は、水不足から生まれた「祈り」が「唄」へ、「踊り」へと変化した象徴である。今回集まった演者の皆さんは、宮古島を代表する方たちばかり。この素晴らしいキャストで、先人から受け継がれてきた「舞踊」「民謡」「古謡」と、今を生きる私たちの新しい創作を共にお見せする。

監修：前里昌吾（宮古島創作芸能団 団長）プロデューサー

出演

「宮古島創作芸能団 団長・やんじゆく」
友利礼・前里玲毅・真壁弘汰・友利叶夢・久高歩眸・与那覇礼夢
「琉球舞踊花会・宮古舞踊 ンまでいだの会」
亀浜律子・神里桐子・川満香多・瀬名波令奈・砂川徳博・砂川政秀・下地心一郎・砂川博仁
「久田流家元・久田多嘉子舞踊研究所」
久田亜也・与儀優子
「唄・三線」
與那城美和

第2部

八重山

世界報 ーばがけーら 島とうとうむー

プログラム

- 一、稲ガ種子アヨウ
- 二、ユングトウ
- 三、キユガビイージラバ
- 四、コイナーユンタ
- 五、アンパルヌミダガーマユンタ

「八重山舞踊」

- 六、鷺ぬ鳥節
- 七、仲良田節
- 八、高那節
- 九、古見ぬ浦節
- 十、みなとーま



世界報を乞う

黒潮が岸辺を洗う、亜熱帯の島・八重山諸島。歴史を紐解けば、ひとびとは、台風や干ばつ、マラリアなどの疫病、時には大津波が襲う自然の猛威とのたたかいの日々であった。また、人頭税や役人の横暴に呻吟した。ひとびとは、荒ぶる神々の魂を鎮めるため、必死に祈り、歌い、踊った。それはひとびとの生活に直結する「世界報」(幸せな世の中)を願ってのことでもあった。

演目は二部構成で、前半は神前や農作業の場で歌われる古謡を中心に、後半は首里王府の宮廷舞踊の影響を受けて成立した舞踊を中心に構成した。

私たちよりも長く土地と共にある自然や生物への敬意を込め、「ばがけーら 島とうとうむ(私たちはみなずつとシマ/共同体とともにある)」を副題とした。

現在、これらの芸能を生んだ八重山諸島の自然や社会環境は急速に変化している。先人の遺産(精神)を汲み、未来をどう創造するか、考える舞台にしたい。

監修：大田静男(八重山芸能研究者)

出演

山里節子・大田静男・廣田律子・大浜賢二
「光扇会大浜治子八重山民俗舞踊研究所」
大浜治子・金城悦子・新城那緒子・前浜邦子・山根頼子
「古見民俗芸能保存会」
新盛和枝・小橋川和美・石原孝子・林良子・仲嶺科子・宮里朝枝・前元光代・大底美紀
「八重山古典民謡保存会」
三線：野原政俊・大浜安則 笛：近藤嘉紀 太鼓：根原格

第3部

琉球

冊封宴の歌 ー北宮十二頌曲ー

プログラム

- 一、萬壽無疆之頌
- 二、聖化四及之頌
- 三、天下太平之頌
- 四、率土安樂之頌
- 五、海不揚波之頌
- 六、封使遠臨之頌
- 七、内外一視之頌
- 八、禮明法正之頌
- 九、河山帶礪之頌
- 十、奉國權舞之頌
- 十一、輪誠仰天之頌
- 十二、球土永安之頌



琉球の御取持

いつの時代でも三線に乗せられた歌には、特別な思いが込められている。かつて琉球王国の王府で新しい王が任命される際には、明(のち清)の皇帝から冊封使が琉球へ派遣された。琉球では、冊封使が滞在する約半年のあいだ、国をあげて七つの宴をひらく。一七一九年玉城朝薫が重陽宴(第四宴)で組踊を初めて上演し、三〇〇年が経過したことは多くの人たちにとって記憶にまだ新しい。一方で、音楽を伴った場は、中秋宴(第三宴)、重陽宴だけではなく、冊封宴(第二宴)にもあった。冊封宴とは、首里城正殿前の御庭で冊封使から新しい王を任命する戴冠儀礼を行い、北宮に移って新しい王が正式に正使・副使らと挨拶を交わすまでの儀礼のこと。北宮に移った冊封使らを歓迎した音楽の一つが、琉球古典音楽による十二の節だった。歌詞となる琉歌の大半はこの時にしか用いられない。本公演では、一八三八年の尚育王(一八三八―一八四七)の冊封時に著された「冠船躍方日記」(一八三九)のそのままに、当時の琉球が置かれた立場や世界観をくささず、もてなしの音楽として選曲された十二の節を上演して見たいと思う。

本来は歌のみであるが、本公演では、新たに現代の琉球舞踊家による作舞を試みた。古の歌詞にのせた音楽と現代の琉球舞踊家による御取持の舞を十分に堪能していただきたい。

監修：遠藤美奈(沖縄県立芸術大学准教授)

出演

「舞踊」
佐辺良和(作舞)・宮城茂雄(作舞)
伊波留依・高里風花・仲嶺夕理彩・宮崎花澄
「歌三線」
新垣俊道・棚原健太・島袋奈美・親川遥
「胡弓」
森田夏子